



保健人権部会だより

五常小学校運営協議会では、児童・生徒が健全に成長する環境を推進するために、保健人権部会を設立しました。

昨年末に、部会員を広く募集していましたが、
下記のとおり決定いたしました。

藤瀬直美 池田千恵子 仲真由美 森井麗七
以上4名で運営していきます。



ありのままの自分が好きになる いのちのおはなし

昨年末に、五常小学校にて学校・地域・保護者を対象として開催しました「ありのままの自分が好きになるいのちのおはなし」講演会についてご報告いたします。

当日の講習会の様子、アンケート結果、子供に伝えるときのツールとしてふわりさんからご紹介していただいた絵本のリストを掲載しますので、会場に来られなかった皆様もぜひご参考にしていただけたら幸いです。



じょさんしの杜ふわりさん

枚方市、交野市、寝屋川市、茨木市それぞれの地域で活動する開業助産師さんが集まって2017年8月に発足。

幼稚園、保育園、学校等で、いのちの始まり、からだの変化などの必要な情報や性のお悩みまで、年齢に応じてわかりやすく、“明るく、楽しく、爽やかに、包み隠さず”に伝える、性教育の活動をされています。



様々な立場から学ぶ子どもの性との向き合い方 自分で自分を守れる人間へ

今回の講習会では、子どもたちを取り巻く学校・地域・家庭・・・と様々な背景をもつ大人たちが、性についてどのように伝えるべきか、その意識や方法について一緒に学びました。

また、大人から子どもへの言葉の選び方や伝え方のコツ、いつか親元を離れていく子どもにとって、幼いころから性について明るく正しい知識を持つことが、自分の体を自分で守ることができる事につながる等、とても大切な性との向き合い方を学びました。



講演内容

性教育の現状と課題 教科書だけでは足りない現実

”ほっといても勝手に知るから大丈夫は無責任！！”
正しい知識を得られない日本の子どもたちが教科書とするのは、アダルトサイト、商業ベースのネットやSNSからの性情報となるので大変危険です。
基本的に小学校で習うのは二次性徴のことが主となり、性交については習っていません。そのため、個々の知識の差が激しくなり大人が聞くと驚くような内容で悩んでいる子どもたちもいます。
ふわりさんからも今回、「生理が始まった女の子と射精が始まった男の子が性交すると妊娠する可能性があるため、うちの生徒は大丈夫！ではなく、伝えられる機会を逃さないで欲しい。」とメッセージを頂きました。

日本の課題

①性加害の8割は被害者の知り合いから②性被害者の8割は警察に相談できていない③子ども被害者の99%以上は信頼できる人に言えていないのかも・・・等、被害者が親や先生等、身近な大人にも言えない可能性があるため、どうサインに気づくのか？が学校や地域の課題となっています。
誰にも被害者・加害者・傍観者になって欲しくありません。
いずれ親元を離れる子どもたちが1人で生きていくため、自分で自分の身を守れるようになって欲しいと思っています。

性的同意年齢（法律）

”性的同意年齢”とは、自分でSEXをして良いかどうか、するしないの判断ができる年齢のことです。
日本の性的同意年齢は100年以上かかり、ついに、2023年7月より13歳から16歳へ引き上げられました。男女は問いません。現在16歳未満との性交は同意の有無に関わらず即犯罪になります！！
（ただし、相手が13歳以上で、且つ、行為者が4歳年上までなら処罰されない）ので注意が必要。例：15歳と19歳の場合は、同意があれば処罰されない

性について聞かれたら？

”事実をそのまま知識として伝える”
伝える側が個人的体験を聞かれ、嫌な（恥ずかしい）気持ちになるのを避けるためについてタブー視してしまうのが問題なので、まずは子供たちに「プライベートのことは誰にでも聞くことじゃないし、それを聞くことによって人を嫌な気持ちにさせたり、傷つけることもある」という事をまず伝えることが大切です。その上で、淡々と事実を説明すると聞くほうも恥ずかしがらずに真剣に聞くことができます。

LGBTQ+、SOGI、DSDs

”みんな違ってみんな良い。あなたはあなた。私は私。”

LGBTQ+とは、セクシュアルマイノリティ（性的少数者）を指す言葉です。全体の9%と言われています。これは、左利きの人と同じ割合なのです。

しかし、中には人生の課題を抱えている子どもが居ることを大人は忘れないで、サインを受け取ったら相談に乗ってあげてください。

思春期の子供に伝えるコツ

”善悪で考えないで、子どもが幸せか不幸せか”で考えましょう。

「ありのままのあなたは素晴らしい。ありのままのあなたに価値がある」まずはこの気持ちでありのままの子どもを受け止めてあげましょう。

自己決定権は一人ひとりにあり、周りの大人はただ知識を与えるだけです。

思想や意見の押しつけをしてはいけません。

「幸せか不幸せか？」何かに迷ったときにこの視点があるととても役に立ちます。

一人一人が違っていい。みんな大切な人。傷つけていい人はいません。

失敗しないように、、ということではなく、失敗しても、乗り越えられる力を育む事が大切です。

児童向け授業のデモンストレーション

ふわりさんが実際に小学校で行っている低学年向けと中高学年向けの模擬授業から、子どもに伝える際の言い換えや言葉の選び方を学びました。



講演会では、「子どもの性との向き合い方」をテーマに、
大人が性教育にどう関わるべきかを学び、
模擬授業を通して、子どもにわかりやすく伝える
言葉の選び方やコツを学びました。

そして最後に、グループに分かれ意見交換会をし、質疑応答を行いました。

意見交換会

- ・親である自分達が受けてきた性教育について振り返った。やはり記憶としてしっかりと教わっていなかったように思う。知っている子どもは分かっているが、逆にそうでない子どももあり、個人差があるのではないかと思う。そういう意味でも小学校で充実した性教育を受けられるのは、とてもありがたいことだと思う。
- ・性教育は最終的に、自分を好きになる、大切にする、自己肯定感の向上へとつながることとなると思うので、ぜひ子どもに受けさせたいと思った。
- ・SNSの情報だけを取り入れられるのは、とても不安。
- ・性別に違和感を感じている子どもへの影響を考えていけないといけない。
- ・sexの怖さ、素敵さは中学でも混在している。(怖さ：性感染症、素敵さ：生命の誕生)
- ・ふわりさんたちがみんな笑顔で話していたのが印象に残った。悪い事、やらしい事ではないという事を伝えていけないといけないなあ・・・。
- ・スマホを使うようになってきたので心配している。性感染症には不妊の原因になるものもあり、知識があれば予防できたのにな。と、とても残念な想いをすることもあり、性教育はとても大切なんだな、と感じる。学校でこういう教育が出来ていることがとても素敵だと思う。保護者もこれを機会にもっと理解できればいいと思う。
- ・女の子の子どもが居る。被害者になる可能性もあるから…と性教育をしてきたつもり。同性には話しやすいが、異性の子どもだと何を話せばいいのかわからなかったが、今回の講習会で、どんな風に話せばいいのかがわかった。先生の話し方はとても抵抗感がなく、こう言う風に話せばいいのか、と思った。子どもは性についてネットで調べる事もできるが、どういう風に調べればいいのかもわからず、そもそも、調べていい事なのかもわからない、となっている。正しいネット情報を発信しているサイトや自分自身(親)が教えてあげたいと思う。
- ・子どもに分かりやすい言葉での説明で良かった。
- ・詳しい説明があってわかりやすい。
- ・身体的な絵は見たことがあったが、詳しい説明を聞いた記憶はない。
- ・知識的部分は教科書にもあるが、説明があったほうが理解しやすい
- ・今は性教育については、担任と養護教員が行っている。
- ・自分の子どもに話すタイミングが難しい。
- ・性のことだけでなく、NOと言えるようにすることも必要と感じた。

※意見交換会で頂いた意見を一部抜粋して掲載しています。

講演会でのQ&A



Q 心と身体の違和感を持つ子どもに対して、からだの仕組みについての説明はどのようにすればよいか？

A 今回は省略したが、体の説明をする時に通常私たちは「今から体の性についての話をするよ」と言うようにしている。体の性と心の性についての話もする時もある。「もし、違和感があったり、困ったときは相談に来てね。」といった、声かけがあれば良いと思う。



Q SEXは大切さとともに怖さもあるが、どのように伝えたらいいか？

A 私たちは基本的に”自分のことは自分で決める。”をモットーにしているので、情報提供にとどめるようにしている。正しい知識を伝えて、決めるのは子ども自身。中3の子どもたちへの説明には、性感染症や中絶についても説明をするようにしている。



Q 知識を持った上で考えての行動はわかるが、つい気持ちで動いてしまうこともあると思う。それはどうしたらいいと思いますか？

A もちろんそういう事もあると思う。ただ、理性で止められずにそういう行動をしてしまったことを怒るのではなく、なぜその行動をしてしまったのか？という事を理性的に考えてもらう。行動には必ず理由があるので、その理由を知ることが大事。本能的に悲しい行動をしてしまう人はだいたい自分のことを大事に考えられない人が多い。まずは自分を好きに、大事にできるようになる、という教育をしていくことが大事。



Q 思春期の子どもたちへの性教育関係の話の仕方のコツは？

A 子ども自身を当事者として話すのではなく、「ニュースでやってたけど、こんなこと友達に教えてあげたら？」等、一般論として情報を提供してあげると受け入れやすいかも。

